

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 27 年度第 2 回 理事会 議事録

日 時：平成 27 年 5 月 27 日(水) 12 時～14 時

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
3 階中会議室 301

構成員：理事 20 名，監事 3 名

出席者：

理事長／水間正澄

副理事長／才藤栄一・出江紳一・安保雅博

理 事／浅見豊子・石川 誠・久保俊一・上月正博

近藤和泉・佐浦隆一・志波直人・島田洋一

菅本一臣・千田益生・帖佐悦男・椿原彰夫

道免和久・芳賀信彦・正門由久

監 事／朝貝芳美・木村彰男・田島文博

事務局幹事／川手信行

専門医会幹事長／大串 幹

欠席者 理 事／白倉賢二

議 題

I. 報 告

1) 業務執行理事会報告

水間理事長から，平成 27 年度第 2 回業務執行理事会（Skype 会議）の報告があった。

2) 会員現況報告

水間理事長から，Honorary Member 及び Corresponding Member を含む会員現況の報告があった。

3) 第 52 回学術集会の準備状況について

里宇第 52 回学術集会会長から，学術集会準備状況について報告があった。

4) 会員からの寄附金受入れ状況

安保副理事長から，学会誌に挟み込んだ寄附金振込依頼書を使った会員からの 4 月分寄附金受入れ状況について報告があった。

5) その他

①大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会

水間理事長から，JRAT 戦略会議において各地区の活動報告，昨年災害支援の報告，財政基盤確立のためのレジリエンスジャパンへの要請と負担金の値上げ，ネパール災害支援の取り組みにつ

いて議論があった旨報告があった。

②日本医療安全調査機構

水間理事長から，日本医療安全調査機構臨時社員総会について次のとおり報告があった。日本医療安全調査機構に対しては，モデル事業においてリハ分野での医療事故の該当がなかったにもかかわらず，負担金が会員数に応じたものとなっていたため見直しを要請していた。今回の臨時社員総会で会費の扱いについて，リハ医学会からの要望を受けて基本領域学会は一律 20 万円の負担となったことから，応じることとした。なお，従来の負担金と新しい負担金との差額については，学会任意の助成金として負担を求められたが，リハ医学会ではモデル事業での事故事例もないことから，免除してもらうことを確認している。また，今後のモデル事業についても，従来のモデル事業に登録していた先生方から各地区における協力者を登録することとした。

③医療事故調査制度支援団体登録について

水間理事長から，日本医学会から本年 10 月から国が実施する医療事故調査制度における医療事故調査等支援団体の登録要請があり，院内調査に関する専門家の派遣での支援について登録することとした旨報告があった。

④基本領域学会理事長意見交換会

水間理事長から，日本専門医機構第 2 回社員総会において財務に関する説明が不十分だったことに端を発し，有志学会が定款変更と予算の詳細説明を求めて臨時社員総会の開催請求を行ったが，これに関連して臨時社員総会を前に基本領域学会理事長を集めた意見交換会が開催された旨報告があった。

⑤日本脳科学関連学会連合

水間理事長から，日本脳科学関連学会連合将来構想委員会において，戦略的に推進すべき研究課題にリハ関連として脳の機能回復・代謝・補完の実現による社会貢献が盛り込まれたとの報告があった。

II. 審議事項

1) 平成 26 年度地方会事務局運営費補助金収支決算及び平成 27 年度運営費補助金の配分について

安保副理事長から平成 26 年度地方会事務局運営費補助金収支決算及び平成 27 年度運営費補助金の配分案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

2) 会費を 2 年以上滞納した者の取扱いについて

才藤副理事長から会費を 2 年以上滞納した者の取扱いについて説明があり、各理事が確認をし、声掛けするよう要請があった。また、この資料は代議員総会当日、事務局受付に置く旨の補足があった。

3) 第 53 回学術集会の準備状況について

久保第 53 回学術集會会長から第 53 回学術集會の準備状況について説明があり、了承された。なお、学術集會前日の理事会、代議員総会、代議員懇親会は、ウェスティン都ホテル京都で開催する旨の補足があった。

4) 学術集会のコメディカルセッションについて

才藤副理事長から、学術集会におけるコメディカルの扱いについて次のとおり説明があった。昨年からは学術集会にコメディカルを取り込み、会員以外の者が発表を行えるように学術集会とは別企画を組んだ。学術集会での主演者としての発表は会員に限られており、会員以外の者が発表するためには定款や規則改正が必要となることから、会員外の者でも発表できるように定款変更などを検討していく必要がある。

これに対して理事から、会員以外の者が発表できるとなれば、コメディカルの入会者が減る可能性があるとの指摘もあり、審議の結果、波及効果も含めて検討していくこととした。

なお、第 54 回学術集會では学術集會とは別企画としてコメディカル Day を位置づけるなど、コメディカルの発表の場を確保する予定である旨説明があった。

5) 秋季学術集會会長候補について

秋季学術集會会長候補の審議に当たり、水間理事長から秋季学術集會の立上について、専門医制度が機構専門医に代わることから専門医会の在り方を見直し、あわせて専門医会学術集會は専門医会から切り離し秋季学術集會として再構築することを前回理事会で承認を得たことから、準備期間も考慮し

2017 年及び 2018 年開催の秋季学術集會会長候補の推薦をお願いした旨説明があった。これに対して、木村監事から、拙速に動いている感じがする。会員が理解しているとは思えない。春と秋の棲み分け、専門医会の問題など、会員にどのように説明するか十分検討すべきである旨発言があった。水間理事長から、春と秋は同じにはならず、秋はレクチャー中心となっていく可能性を検討している。また日程についても検討するとの説明があった。

引き続き水間理事長から、2017 年及び 2018 年学術集會会長候補について、2017 年は菅本一臣先生、2018 年は上月正博先生の推薦があった旨説明があり、審議の結果、両先生を会長候補として代議員総会に推薦することとした。

6) 理事長直轄委員会委員の委嘱について

水間理事長から、前回理事会で承認された理事長直轄委員会である ICF 委員会及び専門医会の在り方検討委員会委員候補者及びそれぞれの委員会申し合わせ案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

7) 選挙管理委員会委員の委嘱について

水間理事長から、選挙管理委員会を各地方会から推薦してもらうことについて説明があり、審議の結果、承認された。

8) 専門医会に関する規則改正案について

大串専門医会幹事長から、前回理事会で指摘のあった第 11 条の改正案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

9) 学会誌の業者選定について

道免理事から、学会誌リニューアルに向けた業者選定について説明があり、審議の結果、原案のとおり和文誌の委託先を三輪書店に決定した。なお、木村監事から、三輪書店はかつてリハ医学会の学会誌を担当していたが、学会の思惑とは異なる方向に向かって行ったために契約を解除した経緯があり、相手先として不安がある旨発言があった。これに対して道免理事から、当時の経営陣や担当者はすべて刷新されているようであり、リハ学会として発信していくべき内容をテーマにしていくため、学術としての位置付けを踏み外すことはなく、高コスト体質も解消していかれる旨の説明があった。

10) 賛助会員の入退会について

才藤副理事長から賛助会員の入会 1 社及び退会 2

社について説明があり、承認された。

11) 医師以外の正会員の入会について

上月理事から医師以外の正会員の入会審査について説明があり、審議の結果、原案のとおり、笹沼直樹先生、樋口謙次先生の入会が承認された。

12) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

13) 社会保険等委員会関係

石川理事から回復期リハ病棟専従医師研修会について説明があり、承認された。

14) 平成 28 年度理事会日程について

水間理事長から平成 28 年度理事会日程案について説明があり第 2 回理事会及び代議員総会及び代議員懇親会の会場をウェスティン都ホテル京都に修正し、その他は原案のとおり承認された。

15) 日本医学会連合役員候補者の推薦について

水間理事長から、日本医学会連合の次期役員候補者の推薦依頼については特に推薦はしないとの説明があり、了承された。

16) 診療ガイドライン委員会 神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン委員会の解散について

近藤理事から、神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン委員会は当面の使命を終えたことから解散したい旨の説明があり、承認された。

17) 資格認定委員会

①指導医の認定について

浅見理事から指導医の認定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

②指導医の資格更新について

浅見理事から指導医の資格更新について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

③専門医・認定臨床医の更新について

浅見理事から専門医・認定臨床医の更新について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

18) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②研修施設の保留解除について

椿原理事から研修施設の保留解除について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

③研修施設の資格喪失について

椿原理事から研修施設の資格喪失について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

19) 2-e 項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から 3 件の生涯教育単位の申請について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、2-e 項目による生涯教育単位申請に係る審議は、3 月の理事会で教育委員会の専決とする旨の承認がされているため、次回以降は報告事項とすることを確認した。

20) その他

①後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

IV. 報告事項

1) 各種委員会報告

平成 27 年 5 月 17 日に開催された以下の委員会について、次の通り担当理事から報告があった。

①資格認定委員会 浅見理事

2) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から、医学生講義について報告があった。

3) RJN 報告

浅見理事から、RJN 委員会企画について報告があった。また、達人の流儀第 2 集の刊行の報告と、購入依頼があった。

4) 2-f (2 回目)、2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から、生涯教育研修単位の申請について報告があった。

5) その他

①平成 27 年度「日本医学会賞」「日本医師会医学研究奨励賞」候補の推薦について

出江副理事長から、本件について心当たりがあれば出江副理事長に申し出るよう依頼があった。

②第 56 回日本神経学会学術大会共催について

水間理事長から、日本神経学会学術集会直前に共催依頼があり、了承した旨報告があった。

③回復期リハビリテーション病棟協会からの学術集会取材依頼について

水間理事長から、回復期リハ病棟協会から第52回学術集会シンポジウムへの取材及び記事掲載願いが出され、業務執行理事会及び編集委員会で検討した結果、問題ないとして承認した旨報告があった。

④PT・OT・ST教員養成研修会運営委員会について
椿原理事から運営委員会の報告があった。この

研修会では、教員に対する教育が必要と思われる旨の補足があった。

⑤脳卒中対策基本法案の今後の対策について

水間理事長から、脳卒中対策立法化協議会から今後の対応について加盟団体の意見を聞いた結果について資料が届き、その中で今後リハ医学会からの要望を取り入れて対応していく旨の記載があった旨説明があった。

以上

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成27年度第3回 理事会 議事録

日 時：平成27年7月11日(水) 12時～15時40分

場 所：八重洲会議室 2階2A会議室

構成員：理事20名、監事3名

出席者

理事長／水間正澄

副理事長／才藤栄一・出江紳一・安保雅博

理 事／浅見豊子・石川 誠・久保俊一・上月正博

近藤和泉・佐浦隆一・志波直人・島田洋一

白倉賢二・千田益生・帖佐悦男・椿原彰夫

道免和久・芳賀信彦・正門由久

監 事／朝貝芳美・木村彰男・田島文博

事務局幹事／川手信行

専門医会幹事長／大串 幹

欠席者 理 事／菅本一臣

議 題

I. 報 告

1) 業務執行理事会報告

水間理事長から、平成27年度第3回業務執行理事会(Skype会議)の報告があった。

2) 会員現況報告

水間理事長から、会員現況の報告があった。

3) ISPRM 2019 招致結果及び今後の方針並びに受賞報告について

水間理事長から、ベルリンで開催された第9回ISPRM 代表者会議において、2019年に開催される国際学会を日本で開催することが決定された旨の報告があった。引き続き才藤副理事長から、今後の体制等について次のような説明があった。

① Bid 経費は動画作成やプレゼン補助者を同行させたことなどにより当初より増額になるが、次回理事会にその収支を報告する。②本日をもって招致委員会を解散し、引き続き理事長直轄委員会のISPRM 実行委員会を立ち上げる。③ ISPRM 国際学会会長は、決定方法に規則等で特に定めが無いため理事会で決定することとし、同年に開催される国内学術集会会長は、本来であれば来年の理事会及び代議員総会の決定となることを、日程調整、予算編成等の関係上、会長予定者として9月理事会で決定し、代議員総会で承認を得る。この会長は、ISPRM 実行委員会の委員となる。④ ISPRM 2019 開催までのスケジュールは示された日程に従っていくことになるが、リハ医学会、LCO、ISPRM、PCO とのすり合わせが必要となり、会計顧問、顧問弁護士にも必要に応じて加わっていただく。⑤今後、国際関係の強化が必要となることから、10th～12th ISPRM 国際学会には、当該年度の学術集会会長に参加していただく。この他、ISPRM 関連学会(特にアジア)との協調を図っていく。⑥ ISPRM からリハ医学会の国際窓口がはっきりしないと言われていることから、今後は実行委員会を窓口にして国際委員会とも連携して対応していく。

引き続き水間理事長から、ISPRM 実行委員会委員及び申し合わせ案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。また、ISPRM 大会長についてこの理事会で推薦し決めるべきとの動議が出され、才藤栄一副理事長が推薦され、全会一致で承認された。

また、水間理事長から、2019年（第56回）学術集會会長候補者は、8月31日までに推薦書を事務局宛に送るよう要請があった。

関連して、久保理事が第53回学術集會会長の立場から、秋季学術集會の位置付け、春の学術集會の位置付けを明確にしていくこと、春には定款を改訂し療法士を積極的に呼び込み、秋には専門医を中心としたドクターの会にするなど学術集會のプロファイルを明確にしていく必要があるとの意見、また、学術集會の規模を大きくし、スポンサーがしっかりと付く仕組みを作り、その中でISPRMについて十分説明をしていく必要があるなどの意見が出された。これに対し木村監事から、ISPRM国際学会や秋季学術集會など、新たな取り組みになることから学術集會の在り方委員会を立ち上げ、ISPRM実行委員会と連携して、早急に今後の方針、方向性を大まかにでもまとめ申し合わせを作っていく必要があるとの指摘があり、審議の結果、業務執行理事の他現在決まっている学術集會会長及び9月理事会で決める第56回学術集會会長を委員とする理事長直轄委員会「学術集會の在り方検討委員会」を立ち上げることとした。

続いて水間理事長から、第9回ISPRM国際学会で、才藤栄一先生がSidney Licht Lectureship Awardを受賞された旨の報告があった。

4) 寄附金受入れ状況報告（5月分）

安保副理事長から、学会誌に挟み込んだ寄附金振込依頼書を使った会員からの5月分寄附金受入れ状況について報告があった。

5) 2017年秋季学術集會日程について

水間理事長から、菅本秋季学術集會会長から日程について、2017年10月28日（土）～29日（日）に大阪国際会議場（グランキューブ）で開催する旨の報告があったとの説明があった。この日程については、事務局から役員宛てにメールで改めて連絡することとした。

6) その他

①全国リハビリテーション医療関連団体協議会

水間理事長から、第1回リハサミットに関する内容を中心に第2回会長会議の報告が行われた。

②大規模災害リハビリテーション関連団体協議会（JRAT）

水間理事長から、JRAT戦略会議について報告

があった。JRATの活動に関しては、国土強靱化政策の中で資金的支援を得られる見込みである旨説明があった。また、海外での震災支援等について、様々な団体からリハ医学会に要請があるが、このような要請はすべてJRATを窓口にすることとしたい旨説明があり、了承された。

③日本医学会連合新役員及び日本医学会新役員について

水間理事長から、日本医学会連合及び日本医学会の新役員について説明があった。

④日本専門医機構社員総会

水間理事長から、日本専門医機構定時社員総会が6月24日に開催され、白倉理事が代理出席された旨報告があった。総会では、機構財務委員会委員として、内科学会、外科学会の他、設立時社員である日本医師会及び日本医学会が財務委員として加わることが承認された旨補足があった。

II. 重要審議事項

1) 新専門医制度について

芳賀理事から、新専門医制度に関する現時点での検討状況について次のように説明があり、審議が行われた。

①5月及び6月にレジナビ for レジデントに参加し、数名のリハ医が本医学会のブースに来た。広報ビデオを制作している学会も有り、様々な場面でアピールできるような広報ビデオの制作の検討を、広報委員会に依頼したい。この件に関しては審議の結果、了承された。

②更新基準に関しては、症例実績を当初50症例としていたが、機構の指導により100症例に変更した。また、単位に関して、シンポジウム、ワークショップは一定の条件が必要であるとの指摘があり、これらを単位として認める場合は、機構の領域別特別プログラムとして認めることとされた。この件に関しては、学術集会で単位を取りやすくするため、第54回学術集會から1学会3単位まで認めることとし、間に合えば来年の学術集會でも取り入れることとした。更に、1講演の時間を45分から60分にする必要があり、規則改正を行い来年から対応してもらおうこととした。

③医療倫理・医療安全・感染対策講習会については、学術集會（秋季を含む）の中で参加費を払い単位

が取れる仕組みとするが、今後機構の講習会として大学病院等でも取れることが予想されており、現時点で見通しは立たないが、当面 2019 年までこの方針で行うこととした。

- ④研修施設に関しては、現在リハ医学会の研修施設として認められている施設が、どのプログラムにも入らないという状況が生じる可能性があることに関し、研修施設は必ずどこかのプログラムに入り専攻医を受けてもらうこととし、2019 年まではプログラムに入っていないでも研修施設として残すが、それ以降は研修施設を取り消すこととしたいという説明に対し、認定臨床医の研修施設としての役割があるとの指摘があり、この件は再度検討することとした。

Ⅲ. 審議事項

- 1) 平成 27 年度後期各種委員会委員の推薦等について
水間理事長から、平成 27 年度後期の各種委員会候補の推薦について、来年 3 月末で任期満了となる委員が多いことからその後の継続性を含めて検討して欲しいとの説明があり、審議の結果、原案のとおり 8 月 31 日までに推薦をいただくことで承認された。
- 2) 選挙管理委員会委員の委嘱について
水間理事長から選挙管理委員会委員候補について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、委嘱を行うこととした。
- 3) 平成 27・28 年度選挙（代議員・役員）日程案について
水間理事長から、平成 27 年度代議員選挙及び平成 28 年度役員選挙日程案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
- 4) 全国大学リハ科責任者連絡会（仮称）について
水間理事長から国公立大学のリハ科責任者調査結果について回答状況の説明があり、今後の方向性については、秋に予備会議を行うことを含めて次回理事会に提案する旨補足があり、了承された。
- 5) PTOTST 教員養成研修新運営委員の推薦について
椿原理事から、医療研修推進財団から PTOTST 養成施設教員等講習会の運営委員会規則を新たに制定したことに伴い、改めて運営委員の推薦依頼があったため、東地区運営委員に太田喜久夫先生、西地区運営委員に大澤傑先生を推薦し、地区協力委員には

各地区運営委員に兼任していただくほか、東地区は川手信行先生、西地区は村尾浩先生を推薦したい（いずれも再任）旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

6) リハ・サミットについて

帖佐理事から、全国リハ医療関連団体協議会で準備が進められ 11 月 3 日に（日）に開催される第 1 回リハ・サミットについて、その趣旨、開催概要等について説明があった。このサミットは、リハ医学会としては関連専門職委員会、障害保健福祉委員会、社会保険委員会合同で対応していくことについて提案があり、審議の結果、この方針について承認された。また水間理事長から、リハ・サミット実行委員会にはリハ医学会から現委員の他に帖佐理事が委員として加わることに提案があり、審議の結果、提案が承認された。なお、水間理事長から、リハ・サミットの運営に関し加盟団体の拠出金が検討されているが、そうならないように働きかけていく旨補足があり、了承された。

7) 震災の対応（国際対応も含めて）について

水間理事長から、報告事項にも関連して、震災支援などの国際対応に関する窓口は JRAT とし、JRAT の中で調整してもらうよう要請するとの説明があり、了承された。また、国際対応に関しては ISPRM の国際担当にも情報を入れていくこととした。

8) 医師以外の正会員の入会について

上月理事から医師以外の正会員の入会審査について説明があり、審議の結果、原案のとおり、中山恭秀先生の入会が承認された。

9) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

10) 社会保険等委員会関係

石川理事から、診療報酬改定に向けた内保連、外保連の動き、急性期病棟リハ医師研修会開催報告、回復期リハ病棟専従医師研修会、在宅生活期リハ研修会の実施計画について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。関連して、厚労省保険局医療課から出された疑義解釈資料のがんりハ研修に関して志波理事から質問が出され、研修会はチームで受けることに変わりがないことが確認された。このため、理事長から厚労省に働きかけを行っていき

たいとの発言があった。また、佐浦理事から、リウマチ学会では診療報酬に関して問題があると思われるレセプトの洗い出しを行っているがリハ医学会でも検討してはどうかとの提案があり、社会保険等委員会で検討することとした。

また、石川理事からプライマリ・ケア連合学会共催フォーラムについて説明があり、審議の結果、共催を認めることとした。

11) 資格認定委員会

①指導医の新規認定について

浅見理事から指導医の新規認定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

②指導医の資格更新について

浅見理事から指導医の資格更新について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

③専門医・認定臨床医の更新について

浅見理事から専門医・認定臨床医の更新について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

④2015年度試験書類審査特別委員会について

浅見理事から2015年度試験書類審査特別委員候補について、案の先生方に委嘱したいが、まだ内諾を取っていないため交代する可能性もあるとの説明があり、審議の結果、交代する可能性も含めて原案のとおり承認された。

12) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

椿原理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②研修施設の資格喪失について

椿原理事から研修施設の資格喪失について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

13) 2-f(初回)項目による生涯教育単位の申請について

正門理事から2件の生涯教育単位の申請について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

14) 国際人類遺伝学会からの専門医研修単位付与について

正門理事から、第13回国際人類遺伝学会から専門医研修単位申請について依頼が来ているが、同学会は関連学会ではないため、2-gの審査になり5単位の申請となるとの説明があり、審議の結果、国

際学会は関連学会に限られていることから関連学会ではない国際学会は、2-gの地方会審査となることとし、今後も同様の扱いとすることが確認された。

15) その他

①後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

②平成27年度医学生・研修医等をサポートする会の開催について

浅見理事から、例年通り日本医師会、日本医学会から開催依頼があるため今年度もRJNで対応したい旨説明があり、審議の結果、了承された。

③日本医学会評議員・連絡委員・用語委員・用語代委員の選出について

水間理事長から、日本医学会評議員に水間理事長、連絡委員に才藤副理事長、用語委員に高倉朋和評価・用語委員、用語代委員に水落強志評価・用語委員会委員長を選出する旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

④学術集会準備資金前払金申し合わせ改正案について

水間理事長から、学術集会準備資金前払金申し合わせにある「前払金」という表現が実態にそぐわないことから「貸付金」に改正する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、貸付金の限度額については、専門医会学術集会がなくなることから5項の「専門医会」を「秋季」に「100万円」を「350万円」に改正することとした。

IV. 報告事項

1) 各種委員会報告

平成27年5月28日から7月5日に開催された以下の委員会について、担当理事から報告があった。

① 編集委員会	道免理事
② 評価・用語委員会	志波理事
③ 教育委員会	島田理事
④ 資格認定委員会	浅見理事
⑤ 施設認定委員会	椿原理事
⑥ 障害保健福祉委員会	久保理事
⑦ 関連機器委員会	久保理事
⑧ 関連専門職委員会	帖佐理事
⑨ 広報委員会	千田理事

- ⑩ データマネジメント委員会 近藤理事
- ⑪ システム委員会 近藤理事

2) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から、幹事会報告、基礎研究 SIG コアメンバー増員、ポストポリオ SIG コアメンバー増員・顧問変更、第 10 回専門医会学術集会、各 SIG 世話人会報告があった。

3) RJN 報告

浅見理事から RJN 世話人会及び委員会企画について報告があった。

4) 2-f (2 回目), 2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について

退席した正門理事に代わって水間理事長から、2-f (2 回目), 2-g 項目による生涯教育研修単位の申請について報告があった。

5) 病態別実践リハ研修会について

正門理事に代わって水間理事長から、平成 27 年度病態別実践リハ医学研修会企画について報告があった。

6) 医療倫理・医療安全・感染対策講習会、指導医講習会報告

正門理事に代わって水間理事長から報告があった。

7) その他

- ①福祉用具・介護ロボット実用化支援事業について
出江副理事長から報告があった。

- ②平成 27 年度運動器の 10 年日本賞の公募について
出江副理事長から、運動器の 10 年日本協会から日本賞の公募が来ているので、申請される方があれば、要項に基づき応募するよう報告があった。

- ③医師主導による医療機器の開発・事業化支援について

出江副理事長から、日本医師会から日本医学会を通じて周知依頼があった旨報告があった。

- ④基本法案の現状について (脳卒中対策)

水間理事長から、脳卒中対策立法化協議会から法案名を変えて国会に諮るとの報告があった旨、説明があった。

- ⑤ボトックス治療学会について

木村監事から、ボトックス治療学会への協力要請があった。

- ⑥特定機能病院の配置基準について

佐浦理事から、特定機能病院の配置基準に「リハ科」が含まれていないため入れるように働きかけてほしいとの要望があり、確認して働きかけを行っていくこととした。

以上